



シニアライフアドバイザー 村山 幸作

グラマンの曳光弾が右 1m に流れた

昭和 20 年 4 月、東村山市陸軍少年通信兵学校の通信講堂の前に蛸壺壕中で小銃を構えていました。そこにグラマンの襲撃で機首を下げた操縦士の顔が見え、ダッダッーと曳光弾が走りました。私はあやうく難を逃れましたが、校内で 2 名の戦友が戦死しました。「なんでグラマンに小銃を向けて撃つ効果があるのか？」と聞くと「南方戦線では、戦闘機を小銃で撃墜した実例があるのだ!!」と小隊長に怒鳴られたが、反論できませんでした。

B29 の墜落現場でみた操縦室の女性通信士

東京大空襲に向かう B29 の編隊が上空を通過するが、高射砲の弾が届かず、我国の戦闘機が B29 の後ろから馬乗りになり自爆し、B29 を爆破して近くの畑に墜落しました。早速駆け足で見に行ったところ、操縦席の中にはヘルメットをつけた女性通信士の姿が人形のように見えました。全く想像を絶した光景がそこにありました。

終戦日の状況

残り 1 週間で戦地に出発予定の昭和 20 年 8 月 15 日朝全員が校庭に完全軍装で集合。樋口少佐学校長より、妨害電波の中で敗戦を告知されました。「日本は負けたのだ・・・」駆け足で中隊兵舎に戻ると、堀木大尉(23 歳)が軍刀を抜き、庭木を一刀両断、直ぐに壇上より軍刀を杖にして、「日本は負けたのだ。若き君達は故郷に戻ることになるが、この後の日本は君達の双肩にある。必ずや日本を立ち上げてくれ。頼むぞ!!」と涙ながらに語られました。今でも 66 年前のことが鮮明に、脳裡を離れないのです。

その後のこと

終戦後徹底して食料難。何でも食べられる物は、さつま芋の蔓を茹でて主食にし、家庭のヒューズを飛ばしながら焼いた電気パンはご馳走でした。米粒の美味しかったこと。就職難であったが、たまたまご縁があり、東京墨田区にある電気屋さんに住み込み、戦後の何でも電気修

理工事を 9 年間勤めました。その間、夜学に通いながら電検 3 種の資格を取り、1 年間のお礼奉公の後、京橋の電気工事会社に再就職しました。社員 10 名の会社で、営業・監督・計装工事を体験しながら、50 年勤務しました。各地への出張、現場監督、営業、総括などをやってきました。創立 80 年を区切りに退社しました。

勤務の傍ら、毎週木曜日の朝 7 時より 8 時迄朝飯を食べながらの勉強会に 20 年通いました。ここで仕事以外の人的資産が培われました。50 年間のことは日記をベースに自己資産として個人年表に記録し、時折見ながら感慨にふけています。忘れてはならないのは、家内が、私の仕事約 50 年以上 3 人の子供たち、そして最近孫達の世話をしてくれ、全く頭が上らないことです。退職後、友人に誘われ自営業として電気管理業をやることになり、約 6 年続けましたが、来年の 5 月に幕を下ろすつもりです。

人生第三航路への船出

来年 6 月より、地域のボランティアとして「出来る時に出来ることをやらせて頂く」をモットーにしながら、ひとり旅を楽しみ、駄文を書き、愛妻の介護を中心に生きていきます。

現在国内に 100 歳以上が 5 万人近くもいる高齢社会を迎えており、今後の余命をどう燃やし続けるか模索中です。何と云っても健康をベースに、日々の生活の中に IT を味方にし、世の中の動きを捉え、家庭の環境変化に対応しながら、ある日突然、PPK である世へ往ければ最高と思っています。



昭和 19 年 陸軍少年通信兵学校 中央左から 4 人目 (15 歳)